

授業概要

本授業では、わが国における児童家庭福祉の動向について把握するために、児童福祉の理念と対象、児童福祉に関する制度の概要と歴史的展開、子育て支援施策の展開と課題、児童虐待における特徴と制度的対応、さらに保育所・幼稚園・認定こども園の概要や特徴、実施されている保育サービスや子育て環境などについて、幅広い視点から講義する。

授業計画

第 1 回	講義のねらいと児童福祉の定義・理念
第 2 回	「児童福祉」から「子ども家庭福祉」への変化・転換
第 3 回	親権と子ども
第 4 回	キーワードからみる子ども観
第 5 回	親になること・子どもをもつこと
第 6 回	戦前における児童福祉の展開
第 7 回	戦後における児童福祉の展開
第 8 回	少子化とベビーブーム
第 9 回	近年における児童家庭福祉の展開 (1) —1990 年代の子育て支援施策—
第 10 回	近年における児童家庭福祉の展開 (2) —2000 年以降の子育て支援施策—
第 11 回	児童虐待の分類と近年における特徴
第 12 回	児童虐待に関する制度的対応
第 13 回	保育所・幼稚園・認定こども園と子育て支援サービスの動向
第 14 回	母子保健サービスと放課後児童健全育成事業
第 15 回	講義のまとめと理解度の確認
第 16 回	定期試験

到達目標

児童家庭福祉の理念や対象など基本的知識を身につける。
 児童家庭福祉の制度や子育て支援施策の展開を把握する。
 児童虐待や子育て環境に関するわが国の特徴や課題について理解する。

履修上の注意

私語、無断の出入り、他の受講者に迷惑となる行為、受講中にすべきでない行為等については減点となる。
 講義開始後 30 分までを遅刻とし、それ以降については欠席とみなすが、公共交通機関の遅延など特別の事情がある場合には考慮する。

予習復習

参考文献や新聞記事などから、取り上げるテーマや時代について簡単な予備知識を備えておく。
 その日に学習した内容を、前回までの内容とのつながりを意識しながら振り返り、整理しておく。

評価方法

成績は、定期試験と平常点を総合的に勘案して評価する。
 配分は、定期試験 50%、受講態度や取組姿勢等 25%、リアクションペーパーや作業プリント 25%である。

テキスト

プリント資料を配付する。

参考文献：山縣文治編 『よくわかる子ども家庭福祉 第9版』 2014年 ミネルヴァ書房
 参考文献：浦田雅夫編著／流石智子監修 『知識を生かし実力をつける子ども家庭福祉 第4版』 2018年 教育情報出版社